

県東ブロックの成果と課題

県東ブロック部長 鹿間 寿枝

1 研究の概要

(1) 研究主題

つながる ひろがる 深まる『あい』のある音楽へ
—出あい 学びあい 響きあい 高めあおう—

(2) 研究主題について

本ブロックにおいては、県の研究主題を受け、主題に込められた「『あい』のある音楽」を具現化するために「出あい 学びあい 響きあい 高めあおう」を研究テーマと設定し、研究を進めた。

本研究では、個別最適な学びと協働的な学びを織り交ぜながら、児童生徒の楽しく活発な活動を確保しながら、子供たち同士のつながり（つながる）、音楽の捉え方の広がり（ひろがる）、多様な考えに触れ、自己の捉えを見直す（ふかまる）ことに焦点をあてた。「鑑賞」を中心とした授業の工夫・改善では、「課題解決型」のグループ学習や「ジグソー学習法」等の学習形態の工夫や比較鑑賞、振り返り活動の充実による「学びあい」「高めあい」の充実を目指した。

(3) 県東ブロック音楽教育研究協議会

- ① 日 時 令和6年12月4日（木曜日）
- ② 場 所 鹿嶋市立中野西小学校、鹿嶋市立大野公民館
- ③ 授業者 鹿嶋市立中野西小学校 教諭 大場 拓哉
鹿嶋市立大野中学校 教諭 大川 美侑
- ④ 講 師 茨城県教育庁学校教育部義務教育課指導主事 井上 寛士 先生

2 研究内容及び成果

(1) 学習指導案の協働立案・検討等の経過

- ① 7月25日（木）鹿嶋市音楽研究部長、推進委員、授業者での授業の方向性の確認
- ② 9月6日（金）鹿嶋市音楽研究部研修会での校種に分かれての学習指導案協働立案
- ③ 9月25日（水）県東ブロック音楽研究部代表者研修会での学習指導案の検討
- ④ 10月8日（火）指導主事 井上寛士 先生への学習指導案の提出（指導・助言）

(2) 公開授業参観（各授業の学習指導案：別添）

- ① 小学校【午前】鹿嶋市立中野西小学校（体育館）
第5・6学年 題材名 曲想の移り変わりを味わいながら聴こう（鑑賞）
教材名 「ハンガリー舞曲 第5番」
- ② 中学校【午後】鹿嶋市立大野公民館（多目的ホール）
第1学年3組 題材名 詩の内容と曲想の変化との関わりを鑑賞しよう
教材名 歌曲「魔王」

(3) 分散会・全体会【中学校授業参観後】鹿嶋市立大野公民館（会議室・多目的ホール）

- ① 分散会：小中学校に分かれて「本日の授業について」「学び合いを深める手立て」についてグループ協議、全体での共有
- ② 全体会：指導主事 井上 寛士先生からの講師指導

(4) まとめ（成果と課題）

小中学校の計70名の参加により、小中学校両方の研究授業参観、分散会での協議、全体会での指導・助言をとおして、「音楽的な見方・考え方」や「音楽（音楽文化）と豊かに関わる資質・能力の育成」のための具体的な手立てや一連の活動を見通した指導計画の在り方等が明確になった。

小学校では、ゲームや学び合い、音色に合う動き（表現）をとおして、拍や速さが見えたり、聴こえたりする体験ができていた。鑑賞における「学習の個性化」への更なる工夫が必要である。

中学校では、ジグソー学習法により、他の人の気付きを自分のものにできていた。また、様々な手段により、ねらいが達成されていた。調の変化を疑い、より深く聴ける力を育てていきたい。

今後も、研修に努め、ご指導いただいた「音楽を形作っている要素をよりどころに、みんな一緒に、同じように、同じことをではない『個別最適な学び』や『協働的な学び』での「高めあい」につなげ、『あい』のある音楽に親しんでいける資質・能力が育つ授業への工夫・改善を図っていく。

1 題材名 曲想の移り変わりを味わいながら聴こう

教材名 「ハンガリー舞曲 第5番」

2 題材の目標

- (1)ハンガリー舞曲第5番の曲想や音楽の構造との関わりを理解する。(知識及び技能)
- (2)速度の変化や音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと、感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさを見だし、曲全体を味わって聴く。(思考力、判断力、表現力等)
- (3)音楽を聴いたり、そのよさを伝え合ったりする活動に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の活動に取り組み、速さの変化と曲想の移り変わりに親しむ。(学びに向かう力、人間性等)

3 本題材で扱う学習指導要領の内容

第5学年及び第6学年

B鑑賞

ア 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴くこと。

イ 曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解すること。

[共通事項] (1)

(本題材の学習において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「速度の変化」、「音の重なり」)

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 ハンガリー舞曲第5番の曲想及びその変化と音楽の構造との関わりについて理解している。	思 速さを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと、感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさを見だし、曲全体を味わって聴いている。	態 曲想の移り変わりに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の活動に取り組もうとしている。

5 題材について

(1)題材観

本題材では、児童が速度の変化や音の重なりなどの音楽を形づくっている要素に気付き、曲想の移り変わりを知覚し、イメージや感じたことなど感受したことを言葉や動きで表現することをねらいとしている。

ハンガリー舞曲第5番(ブラームス作曲 シュメリング編曲)は、A-B-Aの三部形式である。A

は情熱的な短調の旋律であり、Bは軽快な長調の旋律で構成されている。速度の緩急や強弱の変化が明快であり、他にも様々な音楽の諸要素が含まれ、曲想の移り変わりを感じ取って聴き、曲想と音楽の諸要素や仕組みを関連させながら聴く学習に適している楽曲である。

(2) 児童観

実態調査

(令和6年度9月2日 調査人数 13名 回答形式は4件法)

音楽を聴く学習で「音楽のもと」(音楽を形づくっている諸要素を表す言葉)を意識して聴いている	とてもそう思う 4名 あまりそう思わない 1名	そう思う 8名
音楽を聴く学習で、聴こえた音楽から自分なりに場面や世界をイメージして聴いている	とてもそう思う 3名 あまりそう思わない 1名	そう思う 9名
知覚したことと感受したことを関連付けて紹介文を書いている (ヴァイオリンとピアノのためのソナタ)	関連付けて書いている 4名 関連付けて書いていない 9名	

実態調査より、児童は音楽を形づくっている諸要素を聴き取ろうとしたり、聴こえた音楽から世界観をイメージしようとしていたりして鑑賞の学習に取り組んでいると捉えられる。しかし、7月に行った紹介文を分析してみると、知覚したことと感受したことを関連付けて書いている児童は4名のみであった。このことから、児童が思っていることと、実際の活動にはズレがあることが分かった。課題として、知覚したことを表す語彙や感受したことを表す語彙が乏しいことが浮かび上がった。よって、正しい語彙を用いて音楽の世界を相手に伝えることをできるようにしたい。

(3) 指導観

児童の実態を踏まえ、本題材のねらいを達成するために、速度の変化や音の重なりを感じ取り、曲想の移り変わりを味わいながら、言語表現や身体表現に取り組めるようにする。そこで、以下の4点に取り組む。

一つ目は、「課題解決型」の学習形態で進めることである。児童が自ら課題意識をもち、解決に向けて探究できるような、導入や発問の工夫、活動を誘発する環境の整備をしていく。また、学びの足跡を記録し、次の学びへと生かすため「目標&達成度シート」を活用する。イメージする題材終了時の自分の姿に近づくために、毎時間記録を行い、自己調整をしながら課題を解決する力を身に付けることができるようにしていく。

二つ目は、比較鑑賞をすることである。同じオーケストラの演奏ではあるが、雰囲気の違いを演奏を聴く活動を行う。2曲を比較して聴くことで、よりそれぞれの曲の速さの違いや曲全体の雰囲気の違いなどに気付き、多様な音楽の諸要素を知覚できるような展開を図る。

三つ目は、学習の個性化の視点で児童が選択する場面や、反転学習を行う場面を設けることである。比較鑑賞をしたのちに身体表現の制作を行う。その際、自分が気に入った曲を選択し、家庭で楽曲を聴きながら、どのように動くか事前に考えてくるようにしていく。限られた授業時間の中で、じっくりと思考する時間を取ることは難しいため、授業は他者と協働し、深め合う時間にしたいと考え、このような手法を取り入れて実践していく。その際、児童が選択する、考えてくれるだけに留まらず、指導者として児童の思いや意図を引き出し、それを尊重しながら指導に当たるようにする。

四つ目は、協働的な学びの場を取り入れることである。個人の考えを伝え合い、よりよい表現を目指すために他者と関わる場面を設定する。具体的には、身体表現(プラスチック・アニメ)の制作を行う。演奏の良さが伝わるようにするにはどうしたらよいか、質問やフィードバックを行い、話合いの内容がより深化できるようにしたい。また、動画を撮り見返す場を設定し、自己の動きをメタ認知して、工夫・改善を行えるようにしていく。

6 題材の指導計画（5時間扱い）

次	時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動	知技	思	態	評価及び評価方法 指導上の留意点等
1	1	<p>◆ハンガリー舞曲第5番（鑑賞CDバージョン）を聴く活動を通して、速さの変化と曲想や音楽の構造の関わりについて理解する。</p> <p>○常時活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おちゃらかを拍に合わせて行う。 ・音の質を体で表現する。 <p>○学習する曲に疑問を抱き、想像する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師に学習する音楽について質問する。 <p>○『ハンガリー舞曲 第5番』を聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ♩ の動きをしながら聴く。 (Aの部分) <p>○本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>『ハンガリー舞曲第5番』のおもしろポイントはどんどころだろう</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・指揮をしながら聴く。 ・テニスボールを動かしながら聴く。 ・Aの部分についてまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・Bの部分聴く。 ・Cの部分聴く。 <p>○最後の部分を予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理由や根拠を明確にして最後の部分を予想する。 <p>○本題材の学習に見通しをもつ。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>『ハンガリー舞曲第5番』のよさをおすすめするとしたら、どのようなところだろうか。</p> </div>	↓		↓	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の内容につながる活動を行い、学習に向かう雰囲気づくりと心の解放を行えるようにする。 ・これから聴く音楽について想像する場面を設けることで想像力を働かせ、曲に対する意識を高められるようにする。 ・手合わせや指揮、テニスボールを隣に回しながら聴くことで速さの変化を感じとれるようにする。 ・学習課題を確認し、本時のねらいを明確にして、共有を図る。 ・知覚したことと、感受したことをノートにまとめて思考の過程を記録する場面を設ける。 ・速さの変化に気付きながら曲想の変化を捉えることが難しい児童には、体の動きと音楽を関連付けて考えるように助言する。 ・「拍に合わない」「とても速い」「とても遅い」といった児童の気付きを繋ぎながら学習を進めて行く。 ・最後の部分を予想することで曲全体の構造を捉えられるようにする。 ・本題材を通して解決すべき課題を提示し、個人で目標を考え、常に課題意識をもって学習に取り組めるようにする。

	<p>○目標&達成度シート自己評価を記入し、本時のまとめをする。</p> <p>『ハンガリー舞曲第5番』のおもしろポイントは、急に速さが変わるところで<u>あり、焦っている場面やのんびり休憩している場面が想像できる</u>ところである。</p> <p>○本時の学習の振り返りを行う。</p>	↓		↓	<ul style="list-style-type: none"> ・知覚したことと感受したこと両方書くことを促し、根拠を明らかにして本時を振り返ることができるようにする。 (下線：知覚、波線：感受)
2	<p>◆ハンガリー舞曲第5番(ニューヨークフィルバージョン)を聴く活動を通して、前回聴いた演奏と比較しながら、速さの変化や音の重なりと曲想や音楽の構造の関わりについて理解する。</p> <p>○常時活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4拍子に合わせて歩く。 ・6拍子に合わせて歩く。 ・音の質を体で表現する。 <p>○『ハンガリー舞曲第5番』を聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A～Bの部分を動きながら聴く。 <p>○本時の学習課題を確認する。</p> <p>2曲の『ハンガリー舞曲第5番』のちがいは何だろうか。</p> <p>○2曲を比較して聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イヤホンを使い各自聴取をする。 ・Aの場面 ・Bの場面 ・Cの場面 ・A'の場面 ・比較して聴いた結果を表にまとめる。 <p>○どちらが気に入ったか選び、根拠や理由を考えて伝え合う。</p>	↓		↓	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の復習と本時の内容につながる活動を行い、学習に向かう雰囲気づくりと心の解放を行えるようにする。 ・前回とは違う音源を使用することで、場面ごとの速さの違いを比較しながら聴けるようにする。 ・学習課題を確認し、本時のねらいを明確にして、共有を図る。 ・比較して聴く活動を通して、曲の構成や違いについてより深く理解できるようにする。 ・個別聴取という形態をとることで、自分のペースで聴きたいところを選び、くり返し聴くことができるよさを生かせるようにする。 ・タイムバーが動き、場面が分かるような動画を使用することで、聴いている部分を視覚的にも理解できるようにする。 ・2曲の違いに気付くことが難しい児童には、場面を指定して比較をして聴くことを助言する。 ・知覚したことと感受したことから、どちらが気に入ったか

	<p>○目標&達成度シート自己評価を記入し、本時のまとめをする。</p> <p>(例) 2つの曲の違いは速さである。今日初めて聴いた演奏は、最初に聴いた演奏よりも遅かった。同じ曲でも、速さが違うと、雰囲気が変わること気付いた。</p> <p>○本時の学習の振り返りを行う。</p>	◎ 知		<p>選び、理由を書けるように助言する。</p> <p>知：ハンガリー舞曲第5番の曲想及びその変化と音楽の構造との関わりについて理解している。【記述・発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2曲の違いや、おすすめするポイントを視点として書くことを促す。
2	<p>3</p> <p>◆聴き取ったことや感じ取ったことを伝え合い、身体表現を制作する活動を通して、演奏による速さの変化や音の重なり方の違いなど、曲のよさを見だし曲全体を味わって聴く。</p> <p>○常時活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拍子に合わせて動く。 ・音の質を体で表現する。 ・音の方向を体で表現する。 <p>○『ハンガリー舞曲第5番』を聴き、曲の全体像をつかむ。</p> <p>○本時の学習課題を確認する</p> <p>自分が選んだ『ハンガリー舞曲第5番』の演奏のよさはどのようなところだろうか。</p> <p>○曲のよさを発見するため、グループに分かれてAの部分の身体表現を制作する。</p> <p>《事前学習》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が選んだ音源を聴き、知覚したこと、感受したこと、そこから考えた動きをまとめる。 <p>《本時の活動》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知覚したこと、感受したことを伝え合い、動きながらそれぞれの考えを共有する。 ・伝え合ったことを基にして、動きながら曲のよさを表現する。 			<ul style="list-style-type: none"> ・本時の内容につながる活動を行い、学習に向かう雰囲気づくりと心の解放を行えるようにする。 ・動きながら聴くことで、拍の流れや速さの変化を感じ取ることができるようにする。 ・比較して聴くことで、速さの違いや感じ取る印象の違いを理解できるようにする。 ・学習課題を確認し、本時のねらいを明確にして、共有を図る。 ・事前に個人の意見や考えをもって授業に臨むことで、活動時間の確保と全員が意見をもち活動に参加できる場の設定を図る。 ・場面を捉えて聴けるように、画面に映し出して確認しながら何度も聴ける環境を整える。 ・発表した意見に対して肯定や質問を行い、より深い話し合いになるように促す。

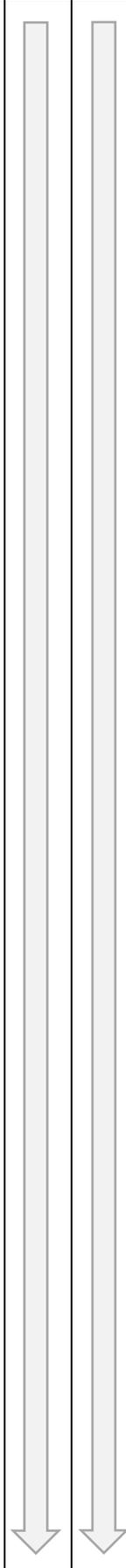
- ・動きを1人1台端末で録画し、それをグループで見返して改善する。
- ・早く終わったグループは、Bの部分のよさを考える。

○目標&達成度シートに自己評価を記入し、本時のまとめをする。

(例) 前回は、速さの変化という曲のよさしか気付くことができなかったが、今回は、途中からシンバルが加わったことに気付いた。シンバルが加わったことにより、演奏の迫力が増すよさがあると思った。

○本時の学習の振り返りを行う。

(例) 私たちの選んだ音源は、前半はゆっくり堂々と流れる感じであるため、動きを大きくして、フレーズが見えるようにした。また、途中からシンバルの音が聴こえた。その新たなよさを表現するために、鳴ったときに両手を大きく挙げる動きにした。



- ・話し合うことと、動くことのバランスをよりよくするために、出た意見を試しながら、それについて意見を伝え合えるように助言する。
- ・速さの変化だけにとらわれず、音の重なりや音の高さ強弱にも注目し、聴くことができるように助言する。
- ・動きを録画して見返すことで、客観的に捉え、修正・改善を重ね、よりよい表現を追求しようとする雰囲気を作り出す。
- ・別の演奏も聴ける環境を整え、比較をしながら聴き、自分が選んだ演奏のよさに気付くことができるようにする。
- ・音の重なりなど知覚したことから、自己のイメージや動きを考えられているか見取り、戸惑っている児童には、問いかけをしながら児童の内面にある思いや考えを引き出す。
- ・他者の意見をどのように取り入れて生かしたか、様々試してどのように折り合いをつけたか、なぜその動きにしたのかなど、制作活動を振り返り音楽的な要素と関連付けながら書くことを促す。

4

◆聴き取ったことや感じ取ったことを伝え合い、身体表現を制作する活動を通して、演奏による速さの変化や音の重なり方の違いなど、曲のよさを見だし曲全体を味わって聴く。

○常時活動

- ・音の質を体で表現する。
- ・音の方向を体で表現する。

○本時の学習課題を確認する。

自分が選んだ『ハンガリー舞曲第5番』の演奏のよさはどのようなところだろうか。

○曲のよさを発見するため、グループに分かれてBの部分・Cの部分・A'の部分の身体表現を制作する。

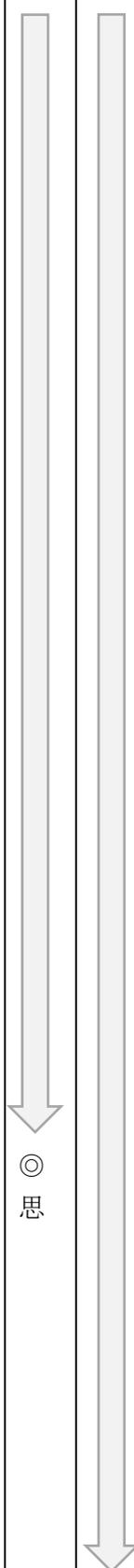
《事前学習》

- ・選んだ音源を聴き、知覚したこと、感受したこと、そこから考えた動きをまとめる。

《本時の活動》

- ・知覚したこと、感受したことを伝え合い、動きながらそれぞれの考えを共有する。
- ・伝え合ったことを基にして、動きながら曲のよさを表現する。
- ・映像を見返しながら、工夫・改善を行う。

○目標&達成度シートに自己評価を記入し、本時のまとめをする。



◎ 思

- ・本時の内容につながる活動を行い、学習に向かう雰囲気づくりと心の解放を行えるようにする。
- ・学習課題を確認し、本時のねらいを明確にして、共有を図る。

- ・前時の活動を踏まえて、新たに動きを考えたり、関連付けたりしながら考えることができるように助言する。
- ・前回と同じ場面設定にすることで、何度も聴ける環境を整える。
- ・発表した意見に対して肯定や質問を行い、より深い話し合いになるように促す。
- ・速さの変化だけにとらわれず、音の重なりや音の高さ強弱にも注目し、動きで表すように助言する。
- ・動きを録画して見返すことで、客観的に捉え、修正・改善を重ねよよい表現を追求しようとする雰囲気を作り出す。

思：速さを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと、感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさを見だし、曲全体を味わって聴いている。

【記述・発言】

- ・制作活動を振り返り、他者とのやり取りや、動画を見て修正

	<p>(例) BとCのところは、新たにトライアングルの音が聴こえた。トライアングルの強弱の違いによって、曲に力強さや華やかさを与えているというよさに気付いた。</p> <p>○本時の学習の振り返りを行う。</p>			<p>した点などと、音楽的な要素と関連付けながら書くことを促す。</p>
3	<p>5</p> <p>◆身体表現を伝え合う活動を通して、他グループの速さの変化や音の重なりなど曲のよさを見だし、曲全体を味わって聴く。</p> <p>○本時の学習課題を確認する</p> <p>『ハンガリー舞曲第5番』の発表会を行い、どのようなところがおすすめポイントを伝え合おう。</p> <p>○グループに分かれて最終リハーサルをする。</p> <p>○発表会を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 見るグループは、伝わってきた音楽の諸要素や感じ取ったことをパドレットにまとめる。 <p>○おすすめポイントをまとめ、伝え合う。</p> <p>○目標&達成度シートに記入し、本時のまとめと題材を終えての自分の学びをまとめる。</p> <p>(例) 私のおすすめポイントは、Aの部分の速さの変化です。弾みながら駆け抜けていく感じと、ゆっくり休憩しているところがあり、頑張っている様子をイメージしました。また、Bの部分は、6拍のまとまりになっていました。フレーズ最後にアクセントがあるような感じがしたので、そこを動きで目立たせました。Cの部分は、速さが急に変わります。急ぎすぎて疲れてしまったのかと思いました。トライアングルが入ることによって曲の雰囲気が変わる印象を受けました。</p>		 <p>◎ 態</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題を確認し、本時のねらいを明確にして、共有を図る。 動きや道具の最終確認を行う。 発表の様子を動画に撮り、すぐ見返すことで、動いたグループへのフィードバックと、見るグループの考えるヒントになるようにする。 自分が選んだ演奏のどこが気に入っていて、相手におすすめするのか、根拠や理由をもって書くように促す。 題材の初めに立てた目標と題材を終えての自分の姿を比較して、どのようなことが出来るようになったのか、新たな気付きは何であったのか、生活との結び付き、今後の課題などを書くように促す。 <p>◎ 態：曲想の移り変わりに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の活動に取り組もうとしている。【記述・発言・観察】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時や題材の学習への取り組み方や学び得たことなどについて、振り返ることを通して今後、音楽と豊かに関わろうとする心情につなげていく。

	<p>○ 本時、本題材の振り返りを行う。</p> <p>《授業外》</p> <p>○他学年向けに『ハンガリー舞曲第5番』のおすすめポイントをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知覚したことと、感受したことを両方書く。 ・表現方法は児童が選択する。 (スライド・動画・サイト・リーフレット・新聞など) 				<ul style="list-style-type: none"> ・児童が表現の方法を選択することで、自己選択・自己決定の場を設け、最後まで、学びへのモチベーションを保てるようにする。 ・文章表現の方法や操作など適宜児童の支援を行う。
--	---	--	--	--	---

7 授業後の成果と課題

(1) 成果

- ・題材計画を課題解決型の学習形態で組んだことにより、児童が探究心を抱きながら学びを進めることができた。
- ・同じ曲ではあるが、異なる演奏の音源を個別に配信し比較して聴くことを通して、児童が、注意深く演奏に耳を傾け、曲の特徴を見つけ、イメージを膨らますことができた。
- ・曲を体の動きで表す活動（身体表現）を行うことで、児童が、より細かな強弱の変化や音色の表情を聴き取ることができた。

(2) 課題

- ・児童が考えた動きの意味と曲想との関連について、児童同士が活発に交流したり、記録したりできるような場の設定を行いたい。
- ・児童は学習を通して得たことや考えたことなどを言葉で表現することが乏しい。そのため、教師として児童と対話を通して、内面にある思いや意図を引き出しながら授業を展開したい。
- ・鑑賞の学習における「学習の個性化」の授業展開を模索していきたい。

第1学年3組音楽科 学習指導案

指導者 小島 美侑

1 題材名 詩の内容と曲想の変化との関わりを鑑賞しよう

2 題材の目標

- (1) 歌曲「魔王」の、曲想と音楽の構造との関わりについて理解する。 (知識及び技能)
- (2) 音色、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。 (思考力、判断力、表現力等)
- (3) ドイツ歌曲の雰囲気や歌い方の違いに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組む。 (学びに向かう力、人間性等)

3 本題材で扱う学習指導要領の内容

第1学年 B鑑賞

ア (ア) 鑑賞に関する知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くこと。

イ (ア) 曲想と音楽の構造との関わりについて理解すること。

[共通事項] (1)

(本題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「音色」、「旋律」)

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 詩の内容と、曲想や音楽の構造との関わりについて理解している。	<p>思① 音色、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えることができる。</p> <p>思② 曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。</p>	<p>態 ドイツ歌曲の雰囲気や歌い方の違いに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>

5 題材について

(1) 題材観

シューベルト作曲の「魔王」は、ゲーテの詩を基にシューベルトによって作曲されたリート（ドイツ語による歌曲）である。「魔王」、「父親」、「子供」、「語り手」の四つの役割を、歌手の発声や曲調を基に表現している楽曲であり、登場人物の表現の特徴と曲想の変化に注目しながら鑑

賞をすることができる。また、「魔王」はシューベルト以外の作曲家によっても作曲されており、作曲家ごとの曲調や形式の違いに注目しながら鑑賞することができる題材である。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、音楽の授業に意欲的に取り組んでおり、これまでに行った鑑賞の授業では、積極的に音楽の特徴について話し合う姿が見られた。鑑賞においては、話し合い活動には意欲的に取り組むことができるが、意見の偏りが多く、深まりがあまり見られなかった。

実態調査（令和6年7月17日 調査人数33名）

1. 鑑賞の授業での自分が感じる達成度はどれですか。

授業で扱った新しい曲について知ることができる。13名

音楽の聴き方について学んだことが理解できる。13名

授業で学んだ音楽の聴き方を、日常に生かすことができる。7名

2. 鑑賞の授業の中で以下のものを聴き取ったり、感じ取ったりすることができますか。

（感じ取れると答えた生徒の人数、複数回答）

音色 29名 リズム 26名 速度 32名 旋律 19名 テクスチャ 9名 強弱 30名

形式 7名 構成 12名

実態調査の結果から、授業中には理解できた内容を、日常の生活に関連して思い浮かべることの難しい生徒がいることが分かる。また、共通事項における旋律やテクスチャ、形式、構成の知覚・感受に弱い傾向が見られた。

そこで、身近にある「ポップ広告」を、旋律や構成等に注目しながら作成することを通して、学習した内容を日常の生活に還元できるようにしていく。

(3) 指導観

本題材では、ゲーテの詩「魔王」に登場する登場人物の心情の変化とシューベルトの作曲による曲想の変化を関連付けて鑑賞する中で、音色や旋律の動きについて知覚できるようにしていく。また、ライヒャルトやレーヴェ作曲の「魔王」と比較する活動を通して、知覚した音色や旋律についての学習が深まるように展開していく。そして、「魔王」の紹介ポップを作る活動に取り組むことで、曲想と詩の内容との関わりによる変化など、楽曲の魅力を自分の言葉でまとめることができる力につなげていく。これらの活動で、1人1台端末を活用したり、ジグゾー学習法や振り返りシートを用いたりしつつ、〔共通事項〕について確認しながら、音楽を形づくっている要素について学び合える学習を進められるようにしたい。

6 題材の指導計画（5時間扱い）

次	時	学習内容・活動	知・技	思	態	評価及び評価方法等
1	1	<p>目標：声の音色や、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ、自分の言葉でまとめる。</p> <p>「魔王」とはどのような音楽だろうか。</p>				

	<p>1 シューベルト作曲の「魔王」を聴き、楽曲のイメージや元の詩から想像する背景について考える。</p> <p>2 作曲家や、楽曲の背景について知る。</p> <p>3 グループで役割分担をし、登場人物のセリフを読む。</p> <div data-bbox="263 712 662 902" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>まとめ (例) 暗い音楽で、魔王におびえる子どもの様子が表現されていた。</p> </div>		<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の内容や物語の展開を説明せず、曲想からイメージすることで、音楽とイメージとの結び付きを感受できるようにする。 ・感情を込めて読むこと助言し、状況や気持ちの変化による声色の違いに気付くことができるようにする。 ・生徒が作詞者や作曲者、物語の内容を理解した状態で最後に演奏を聴かせることで、曲全体の概要や雰囲気を感じ取り、次時の活動につながるようにする。
2	<p>2 目標：声の音色や、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考える。</p> <div data-bbox="263 1198 662 1339" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>登場人物ごとに、どのような音楽の要素の「しかけ」があるだろう。</p> </div> <p>1 曲想の変化や歌い手の発声の変化を根拠に、詩を並び替える。</p> <p>2 日本語の音源を聴く。</p> <p>3 4人の登場人物ごとの音楽の要素の変化を個人で聴き取る。</p> <div data-bbox="263 1774 662 1915" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>まとめ (例) 子どもは回数を重ねるごとに音程が高くなっていた。</p> </div>	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語の音源を用いることで、歌詞ではなく曲調から判断して並び替えを行えるようにする。 ・ホワイトボードを使用して、詩を並び替えることで、曲想の変化や、詩との関わりを視覚的に捉えることができるようにする。 ・登場人物ごとに区切って分類した音源を用意することで、曲中における音楽の変化を聴き取りやすいようにする。 <p>思①：音色、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えている。 【観察・ワークシート】</p>

3
本
時

目標：詩の内容と、曲想や音楽の構造との関わりについて理解している。

登場人物の心の動きと、音楽の要素にはどのような関わりがあるだろう。

- 1 本時の学習課題を確認する。
- 2 前時で聴き取った4人の登場人物ごとの、音楽のしかけについて、グループで表にまとめながら共有する。
- 3 前時に聴き取った「4人の登場人物の心情の変化と音楽の要素の関わり」について、同じ登場人物を担当するチームで考えを深める。
- 4 深めた内容をグループ内で共有する。
- 5 全体でまとめを行い、本時に感じ取った音楽の要素について触れながら振り返りを行う。

まとめ

(例)魔王におびえる子の声が音の高さで表現されていたり、魔王が子供をおびき寄せるために明るい伴奏の動きになっていた。たりした。

◎

・本時では、日本語の音源を使用することで、登場人物の心の動きと、音楽の要素の関わりに着目して聴くことができるようにする。

・表にまとめることで、登場人物の心の変化や、関係する音楽の要素を捉えやすくする。

・前時に個人で聴き取った内容を基に、音楽の「しかけ」が、音楽の要素であることを知覚し、心情の変化と結び付いていることに注目できるようにする。

・ジグゾー学習法を用いることで、他の班の、同じ登場人物を担当する人と交流し、考えが深まるようにする。

・登場人物の心の動きと、音楽の要素について感じ取ることが難しい生徒には、部分ごとに区切った音源を何度も聴きながら確認できるようにすることで、イメージが掴めるようにする。

・深めた内容をグループで共有し、再度音源を聞くことで、曲全体の曲想の変化を感じ取ることができるようにする。

・個人の学習した内容に加え、全体でまとめた内容から言葉を抜き出すことで、様々な角度から楽曲を理解し、振り返りを行うことができるようにする。

知：音楽の要素がどのような働きをしているかについて知覚し、詩の内容と、曲想や音楽の構造との関わりについて具体的に記述している。

【観察・振り返りシート】

<p>4</p>	<p>目標：曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。</p> <p>作曲者の違う「魔王」には、どのような違いがあるだろうか。</p> <p>1 ライヒャルト、レーヴェ作曲の「魔王」を、前時まで学習した内容に基づいて比較しながら鑑賞する。</p> <p>まとめ (例) 作曲家によって魔王の恐ろしさを表現する方法が違っていた。</p>	 <p>◎</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に学習した「子の声の高さ」、「伴奏の動き」、「魔王の声色」に着目しながら比較することを促すことで、曲調や形式の違いに気付くことができるようにする。 <p>思②：音色、旋律を知覚し、それらの働きの生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えている。 【観察・記述】</p>
<p>5</p>	<p>目標：歌曲に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>紹介ポップで「魔王」の魅力伝える時のポイントはどこだろう。</p> <p>1 「魔王」の特徴やよさについて、全体で話し合い、曲紹介用のポップにまとめる。</p> <p>まとめ (例) 魔王は、子どもを連れ去ろうと明るく楽しい音楽や巧みな言葉を使ってだましているところが印象に残った。 (例) 子どもは魔王が近づく恐怖から、だんだん高く大きな声で父親を呼んでいるところがおもしろいと思った。</p>	 <p>◎</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「魔王」の特徴や、印象に残ったところを分かりやすく伝えられるように、参考作品を提示する。 <p>◎ 態：ドイツ歌曲の雰囲気や歌い方の違いに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 【観察・発言】</p>

7 授業後の成果と課題

(1) 成果

- ・役割演技と詩の並び替えの活動を一つに絞ったことで、比較鑑賞の時間を十分取ることができた。
- ・本時の課題について、登場人物の心の動きだけではなく、音楽の要素との関わりに注目したことで、音楽の学習として、ねらいが明確になった。
- ・ジグソー学習法で取り組んだことで、自分の考えだけでなく、他の人の考えや気付きを知ることができ、それを自分のものとでき、学びに広がりや深まりが生まれた。

(2) 課題

- ・本題材全体を5時間扱いにしたが、音楽の指導時数、「鑑賞」自体の指導時数を考慮すると、指導内容の精選や展開の工夫・改善が必要である。
- ・全体鑑賞の音源の選び方や音源の活用の仕方に工夫が必要である。
- ・調の変化等、「本当かな？」と疑うことで、より深く聴けるように、切り返しの発問やあえて全部指示を言わずに思考を促す働きかけをしていきたい。